

21. 脳及び脊髄疾患に対する高圧酸素療法の意義

古野利夫*¹⁾ 龍村俊樹*¹⁾ 辻本 優*²⁾
 東出慎治*²⁾ 美濃一博*²⁾ 伊藤祐輔*¹⁾
 佐々木博*³⁾

(*¹⁾富山医科薬科大学救急部
 *²⁾同 第一外科, *³⁾同 院長)

脳及び脊髄疾患に対する高圧酸素療法（以下 HBO）の有用性につき検討したので報告する。

脳疾患は54例で、脳梗塞、SAH 術後状態及び低酸素脳症に分けて検討した。脳梗塞は39例で平均66.6才であった。発症より HBO 開始までの期間は0～20日（平均3.2日）で、25例は3日以内に治療を開始し得た。また、適応のある症例には血栓溶解療法の併用も行った。症状の改善が25例にみられ、有効率は64.0%であった。また、多発性小梗塞6例、脳幹部梗塞4例、STA-MCAbypass 術後3例を除いた26例の有効率は80.0%と高率であった。なお上記3疾患の有効率はそれぞれ33.3%、25.0%及び33.3%であった。SAH 術後の血管攣縮期に脳梗塞様の症状を呈した8例にも HBO を行った。有効例は2例（25.0%）と少なく、逆に悪化する例もみられた。低酸素脳症は7例あり、心タンポナーゼ、ハンギングなどの原因で心停止となり、蘇生されたが意識障害の残った症例に対し HBO を施行した。この群では重症例が多く、開始までの期間も平均8.9日と長く、著効を示す例もみられたが、有効率は低かった。

脊髄疾患は25例あり、脊髄損傷6例、脊髄梗塞3例、癒着性クモ膜炎3例、悪性腫瘍の脊椎転移2例、ALS 2例、脊髄小脳変性症2例、その他7例であった。有効率は損傷では60.0%、梗塞では66.7%と比較的高率であったが、その他の疾患では HBO の有用性は低いように思われた。

血管障害や損傷に起因する中枢神経系の障害に対する HBO は、治療を早期に開始することにより、より効果が得られる傾向がみられたが、慢性期においても有効な症例を認めた。上述のように脳及び脊髄疾患に対し適宜 HBO を行えば、かなり高い改善率を得ることができ、積極的に本療法を併施すべきと考える。

22. 嚢胞状黄斑浮腫に対する高気圧酸素療法

湯佐祐子*¹⁾ 野原 敦*¹⁾ 当山貴子*¹⁾
 井上 治*¹⁾ 新垣 均*²⁾

(*¹⁾琉球大学医学部附属病院高気圧治療部
 *²⁾ 同 眼科)

嚢胞状黄斑浮腫（CME）は種々の炎症性、血管性、変性疾患に伴う合併症で、完成された浮腫に対しては有効な治療法がなく、視力予後は不良とされている。我々は種々の原因に基づく CME 症例に HBO を行い良好な治療成績を得たので報告する。

【対象及び治療方法】網膜中心静脈閉塞症（CRVO）、網膜静脈分枝閉塞症（BRVO）、糖尿病性網膜症や白内障手術及び眼内レンズ挿入後に併発した CME で、発症後1年以内で CME が視力低下の原因と考えられる症例を対象とした。白内障手術及び眼内レンズ挿入後の CME は自然治癒しやすいため、眼科的薬物療法により改善が得られない症例とした。HBO は 2 ATA_{O₂}, 60分, 1日1回で20回を目標とした。治療効果の判定は矯正視力を治療前と HBO 終了後と比較し、2段階以上改善を有効とした。

【結果】現在迄の治療終了例は CRVO 3 症例 3 眼、BRVO 4 症例 4 眼、白内障嚢外摘出及び眼内レンズ挿入 2 症例 2 眼、糖尿病性網膜症 1 症例 1 眼、合計10症例で、年齢は27～88歳である。HBO 開始迄の期間は1～8ヶ月で HBO 開始迄に1症例を除く CRVO, BRVO 全例に網膜光凝固術が、眼内レンズ挿入例ではインドメロール点眼とインダシリン R の内服が行われていた。

HBO 終了直後に視力改善が有効であったのは BRVO で 4 症例中 2 症例、他は全例で視力が2段階以上（2～10）改善した。経過観察5ヶ月以内では、有効例でその後2段階以上視力が低下した症例は無かった。蛍光眼底造影で治療前後で比較検討可能であった4症例中2症例で蛍光色素漏出がみられた。現在治療中の症例及び治療効果の持続などの検討を含め文献的考察を加え報告する。